

3

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ここまでのあらすじ」 主人公の「おれ」は、数学の教師として東京から四国に来たが、初めての授業に戸惑ったり、興味のない骨董(注1)しつとうを売り込まれたりする日々を過ごしていた。

ある日の晩大町(注2)おおまちと云う所を散歩して居たら郵便局の隣りに蕎麦(注3)そばとかいて、下に東京と注を加えた看板があった。おれは蕎麦が大好きである。東京に居った時でも蕎麦屋の前を通って薬味の香(注4)においをかぐと、どうしても暖簾(注5)のれんがくぐりたくなかった。今日までは数学と骨董で蕎麦を忘れて居たが、こうして看板を見ると素通りが出来なくなる。① ついでだから一杯食って行こうと思つて上がり込んだ。見ると看板ほどでもない。東京と断(注6)ことわる以上はもう少し奇麗(注7)きれいにしそうなものだが、東京を知らないのか、金がないのか、減法(注8)めつぽうきたない。昼は色が変わ(注9)かわつてお負け(注10)まに砂でざらざらして居る。壁は煤(注11)すすで真黒だ。天井はランプの油煙(注12)ゆえんで、燻(注13)すすぼつてるのみか、低くつて、思わず首を縮めるくらいだ。ただ麗々(注14)れいれいと蕎麦の名前をかい張(注15)はりり付けたねだん付けだけは全く新しい。何でも古いうちを買つて二、三日前から開業したに違いなからう。ねだん付の第一号に天麩羅(注16)てんぷらとある。おい天麩羅を持ってこいと大きな声を出した。するとこの時まで隅の方に三人かたまつて、何かつるつる、ちゅうちゅう食つた連中が、ひとしくおれの方を見た。② 部屋が暗いので、ちよつと気がつかなかったが顔を合(注17)あせると、みんな学校の生徒である。先方で挨拶(注18)あいさつをしたから、おれも挨拶をした。その晩は久し振(注19)ぶりに蕎麦を食つたので、旨(注20)うまかったから天麩羅を四杯平(注21)たいらげた。

翌日何の気もなく教場(注22)まがらへはいると、黒板一杯ぐらゐな大きな字で、天麩羅先生とかいてある。おれの顔を見てみんなわあと笑つた。おれは馬鹿馬鹿しいから、天麩羅を食っちゃ可笑(注23)おかしいかと聞いた。すると生徒の一人が、しかし四杯(注24)よっぺは過ぎるぞな、もし、と云つた。四杯食おうが五杯食おうがおれの錢でおれが食うのに文句があるもんかと、さつさと講義を済(注25)おまして控所(注26)ひかえじよへ帰つて来た。十分立つて次の教場へ出ると一つ天麩羅四杯也(注27)なり。但し笑う可(注28)べからず。と黒板にかいてある。さつきは別に腹も立たなかつたが今度は

癩しやくに障さぶった。冗談も度を過こせばいたずらだ。焼餅やきもちの黒焦くろくちのようなもので誰も賞ほめ手てはない。

(夏目漱石『坊っちゃん』による。)

(注1) 骨董こつどう|| 古い絵やつほなどで値打ちのあるもの。

(注5) 麗々れいれい|| 派手で人目につくさま。

(注2) 滅法めつぽう|| 度をこしていること。

(注6) 教場けうじやう|| 教室。

(注3) 油烟えん|| 油が燃えるときに出る、黒い細かな粉。

(注7) 四杯しはいは過ぎるぞな、もし|| 四杯は食べ過ぎではないですか。

(注4) 燻すすぼつてる|| 煙で黒くなる。

(注8) 控所くわうじよ|| 職員室。

一 ―線部①「素通りが出来なくなる」とありますが、その理由として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選びなさい。

- 1 看板の美しい文字にひかれたから。
- 2 探していた蕎麦屋を見つけたから。
- 3 店の暗く汚い様子が気になったから。
- 4 東京にいた頃から蕎麦が好物だから。

二 ―線部②「ひとしくおれの方を見た」とありますが、この部分の意味として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選びなさい。

- 1 ちらっと、おれの方を見た。
- 2 親しげに、おれの方を見た。
- 3 そろって、おれの方を見た。
- 4 熱心に、おれの方を見た。

三 ――線部③「一つ天麩羅四杯也。但し笑う可らず。」とありますが、これを見たときの「おれ」の心情を説明したものとしてみても適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選びなさい。

- 1 天麩羅蕎麦を四杯食べたことを繰り返して笑われ、恥ずかしい気持ちになっている。
- 2 自分の行動を繰り返すからかわれ、生徒のしつこい行動に腹を立てている。
- 3 何度注意をしても黒板に落書きされ、自信をなくして気持ちが落ち込んでいる。
- 4 好きでしていることを面白がられ、生徒に理解されず寂しく思っている。